



Title	国民社会の研究 第19巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1962-05-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77582
Type	manuscript
Note	国民社会の研究各論 第3章：国家統治現象 『鈴木栄太郎著作集7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	1022_0119.pdf



[Instructions for use](#)

19

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會の研究

第十九卷

昭和二十八年六月七日

A
30
358



意匠登録
No. 151492



19

正合理的に充分に理解しそれら
適切な措置を講ずるに遠慮し
たけ小作を
如何に日本国民の合理的理解の
前途に合理的措置の実行に
文化の成長に充分に期待を
得ないとするか否か。

最高に税金を課せしむるに
畏敬して、より低い様に水

社を設立するに機嫌して、日本国民

国民の協力の合理的成長を

予は固執する。合理的成長に

限り文化的成長を意味する

出来ぬ。

人同國性における全體は人の價値を
皆その價値に憑せんとす。此の價値の
殊立つ所の思ひは、
由來の經濟的、
に建てる
人が行ふ行為の
判るべきもの
ぬ。

この「國民性」の概念は、
が文化的ル上より、
く物から、
ほれど、
成是して、

かゝる物方の國民性を、
に穿つて、
4

二次の如く措置しを合規制を案と考へ
の可しと多然の懸念を述べた。

一、家族制を重んじしと夫婦家族制を
あしす、但し親と子と望み合はし同居し
せよとの事。

一、子供は学舎に送る事と若し口家管轄に不
教養も生活も同舎舎の若し其等生活に
入る。

一、学舎を終りたる若し職場へ送る事と親不
なく教師と職場を決定す。

一、中學校に累年し高年者及び中小都府
に大學は都府に設置すべしとす。

一、学舎はすべしとす。

一、養老院、病院はまづ口で言ひし又其後
此等の規模に及ぶべき料金は各料金を前
に設けし。

一、最低賃金制が、補少り共に最低所得
制にの制を設けす。最高は料を
最低の五倍止りにす。

一、国民皆保険制自身分意該る。既得の
又、家習的な又は傳統的な物束からの
が、大半を以て、合制の財を以て、新
学や生業の支遣に、有り余り、生活環境の
成に生活に要するが少き。

一、合理的な製法を以て、成長の為に、昔からの
造機やヒューマンから、ほしのひかぬ。

ではあるか。一才に法律とは人権は平等である

つかい、人権尊重は擁護にたかり、分

断はあつては一元は護方の手段である

へつ、その正名の措置として法律にそ

を附帯して、私有財産を擁護

す。為^に法律^とあり、人権尊重^のあり

富者^の擁護^を為^す法律^のあり

ありしある。羊と虎を一つの檻

に入し各自の自由を認めよのなま

来、の活動^を思想^す、羊と虎

は各自の活動^を認めよのなま

は力^がた^り免^は逃^げ、活動^を認めよ

の^なま^もあ^る、今^のま^の

法律は争の爲には余りに接觸を断る

べき上虞の爲には余り追いかけては

しなや字要を程を法律である。

親法の法律は
余のあつたの末の形で上位にある者

有利な地位にある者は必都令の

制の結果を案にしよう法律である。

法律や制を正すべし破産のあとのま

の状態を守護すべし掛けたら、その

からである。

私の考へては日本国民がなすべし

字の題絶をなす平和的な方策

として分配しおけし最高所得の制限

の制を提唱し、口長記をいおけし

最高及び最低の身分の絶多^制蔵
のため、明治の身分令序口宗管理制
と云ふから、明治の身分令序口宗管理制
制への移行の決意を提唱する。もし
最後の口民の令行の存続案
のみ一人の人為的増進制を提
唱す。

統一政治制度の選挙に於ける合理的な法

選挙は直接的選挙の中より、^中に於て行は

れり。集落選挙が直接的選挙であるは、その

集落選挙から一人を相互選挙せしむるよ

う選挙也。集落選挙が直接的選挙より大

なる時は、^{給付人等}而接の團毎に一名を選挙せし

む。誠実である人、又名譽や自新のみん

行知する人を選ばなく世の為人の爲につくす

素望ある人か選挙せされり。

右の才一次の選挙せしむるに選挙はれたる人

の中より、⁺最多の地域、~~其~~毎に次の標準ん

ぶつて一人を選挙せしむる。経済制や文化に關

す。職能の高い者を選挙せしむ。それは各人

演説テストに立候補した人は
失格と見做す

の可及の発表を(選挙)者の前にして演
説せしむるのことは(選挙)者

に於ては(選挙)者一人の十人毎に一人を

~~選挙~~

次にかくして(選挙)せられ若し万人毎に次の

標準による一人を(選挙)せしむ。これは此

の思想に同ずる合理的な識見

の島原によつて(選挙)せられ。政務演説に

よつて(選挙)せられ。

(選挙)者はすべし(選挙)せられ。最かに(選挙)

せられ五十人より主眼たる(選挙)せられ。是

れが(選挙)主又は首相、大総長などの名に

よつて(選挙)せられ。選挙者が五十人の以上より

権々の主義を任命する。

右の亦、¹は統治をその末端より理解する
愚淺の年順に則して、²國民死命の
自主的進歩をも最善とせ、³全かし²知りかん
とす。亦法である。

合理的協力方式としての文化

講とライ、梨とブドウ、命令と智恵

とは比喩合理的協力方式と同一の線

幾のしのであよ、協力の方式の文化とい

ては同一のものであり、

□ 民生生活のありは文化は何か

何かの行動の方式に因す。もの

である。生活に因す、行動、消費

に因す、行動、統治に因す、行動

に因す、行動、皆に因す、外

部。生活に因す、行動、協定

に因す、行動、合理的協力の

因す、行動についての文化を

15

（是ニルがかれとの生活の

理解しうのない仕組みは、文化圏人々
の間に存在すれば、必ずしも生活は不可
能である。

人間の文化は、異なる文化が混在し
て、一つの行動を断絶して、
口耳伝はるは、新種の文化の混合
や、^{その}文化から他の文化との
のみにて、その存在。文化の
一組が、
どんなものでも、
その存在の
ことである。

かくの如く、文化の
そのは統治文化、
生活文化、
合衆の協力の方式文化を
含む。

16
財源、所有文化、
文化

結節的機關は擧取の聲

結節的機關は常に擧取の聲

であるが、今日の先業は交易の原則

の上に皆を包む。民生の維持

發展のために必要を社會的機關を以

つもので交易は對等の責任の上は

成立してゐる。人の先業は何れも社會

生活に必要を役割をもつてゐる。左

の何れの一部の活動が停止してしま

つた生活の同歩を保持するありと後

たつて勿論である。その意味は何れの

先業も皆社會の公僕として存在し

てゐる。皆の責任は社會の爲めに

業としてその役割をたぐるべきである。

役割は皆対子の存在価値を

もつその生産物^品は対子の資格

にある。国民の市場で交易さ

れる。甲の生産物には八時子の劣

物もこの生産物における八時子の劣物

も同様の所得をうける。おそれな

らうが、一九六二年の

組に東京都民一人当りの年子

所得は十八万円余、全口の他都市の

おける市民一人当りの所得は九万円

余である。東京の中心は最高所得

層が十名位は一億円以上である。

年子所得

所得におけることを相異は之にかう

かこの所得はか。

予定生業の種族によつて異なり固同
生業でも其の地位によつて大なる

所得の同否がある。

常業供給の存続によつて常業の

多生業は所得が大なり少なり生業は

所得が少なり然し最も常業の多

少を常業は所得が最も低い

は何故か。最も常業のすか。

の改定率は所得が最も高い

は何故か

20 常業の額見よによつて所得の高下

が考へて、そのほろりたる想である。少数の
新鋭優秀の者のみならず、得るべき
同じ物であるとは、最も高い所得
の者への考へ、ゆゑ、それは其の不
足するが生活をしてゐる。著能
スポーツの天分費がたゞのほろ
り相考する。所得を得るべき、
よきおれは天分を尽したる所得を
得て、たゞの
人の卑しむべきであ
る。苦しむや、岸燈や不術を古犯し
行はぬ、生業は是れ、又所得は
て、あつた下、ある、其はその、勤下
つて、賤業種、所得は低い。

一般に知能の低いものが賤業につき、高
い者が高知な生業につくので、知能の
程度によつて所得も定まると見よう
て来よ。

けれども、^{いふ}知能低くその地位
世を守り外に役に立ち得ない
人が相者高い地位を占め、高い
所得をえよう。場合が多い。

是の互利に知能は一人一事に聰明で
何をやして世に用ゐる人である。

僕には米塩の業を得た。又の人
は^は多し。是れは運と云ふ所の

よる止の下、色々の條件の色々の
22

統帥的機関の権限を所得
比率決定の権限であることと思ひ
おす可いであらう。

統治の最高の権限は口長所得比率
の圖式を決定する権限であらう。

口長所得比率下の圖式の中で統治の
最高位者は其の最高位の権限を自ら
に与へて正直な行為の爲めに口長

生活の後顧をかける。

権限に集まる。口長所得

漸進主義工業者十カールと工業者も
皆所得比率決定の一役を充てる
有席者といふこと。

24 与へらるべきものの比率に甘んじた

豊山漢民
けれはなうなかつた人けは昔の學問の民
と労働者下あつた。それけ結ぶ
の骨も氣しいけ昔の人のくあよ。

附記

人は最近で自分自身について

この外又は自分自身を大事に
するを中心にしての考えて

来石。あゝ中の職業の人が自身
の職業を中心に物を考えて

た。統治について考えて人ありむ
統治を職を考へする。自分の生

業の省新さを考へようを定めて
はなかつた。人は皆隣を手に自分の

生業の有弊さを高ぼすのみを求むる
事な。

人の生業の所得の比率の公平さを
奨励し考へはじめた才一の人々は
本工作明治末期の社会主義意識
であつた。その生業運轉の組織的
な活動がおこると共にこの改訂的
人同解群運轉については、
此作群時代からそのまゝに
来り、素も統治体制に対する人同
群群による脱皮政策である。
従来の生業の所得の比率は
生業の敗では格差の多きもの

税採取が多く同一生業にあ
いは然る節の上位にある。税採
取後に富むていた。故に然る節の
の多い経済及び経済的機関の
の最上位にある。税採の多きが
税採取を最も多くして、
た。その本質は、
最と高支配者と独占資本の最高
の支配者である。その人達はその
直下の配下が集まる。ところが
首都である。首都人口の一人
当りの所得が口数に比例しない高
額である。その消費が、
生活

却り花やかであるのは当然である。
是之には口内への超特級の文化が
あつたり、其時々の喉を此の
形勢が創り出され、
いよいよかくて金口は東京より地方
に拡大される。

七、六、

九種の機園の力の優劣^{この}序列

どの機園が最有力か、次にどの機園

かの同題であるか、これは皇位^{皇位}継承には

は民間^{民間}に於いて最終の決定力を有

すものは何かの同題であるか、

激^激るの心^心は金^金と恋^恋が最^{この世}なる方である

申すを承えたい。これは一人一人の人の

心の内で何れが有力であるかを同題

としていよ。機園の力の優劣とは

他人の心^心がどうなるか、如何に受けとらうと

するかに同題でなく、甲の機園に替

わりますこの機園は甲を屈服^{屈服}す。

か、それか、その何れかであるか、

統治機關と經濟の機關は拮抗
す。場今何れも何れも眼するに
あつたのである。

統治は及ぶと經濟は抑圧
され、經濟は及ぶと統治は
明白に不自由になる。統治は
優位にあつて、經濟は劣位にあつた。

統治は及ぶと、生活物は抑圧
され、統治は及ぶと、教育も宗教も
娯樂も抑圧される。そこで統治
の優位を意味して、明白に
統治は及ぶと、可憐なものが

抑壓される。これは、
30

も抑制才も実力と資力をしつゝ。
 D案の総論の方はねりぬでは万般不
 あく十全である。故に総論の機関
 が金^り機^同の上には支那しては
 とおの^り可^あ法^あ少^あ第^あ。各^種の^アン^ンテ
 ン^ン法^同に^案を^下重^籍しては
 下^法存^い。総^論の^案を^下重^籍しては
 他^のア^ンン^ンテ^ンを^強力^の支^配
 した^らが^りその^序列^を作^つて^いは^す。

是の^措置^は、^法名^の解^を表^現す^るに^可す^る

が^型を^して^一切^のア^ンン^ンテ^ンは

経済^のア^ンン^ンテ^ンを^下部^措置^とし^て

して^{その}下^部措^置を^底に^して^上部

都市内生業各種

合為生産流通業

衣靴生産流通業

家具屋建修修繕業土木工作業
家具會器物製造業
廢物回收業

運搬通信業

治安維持處理業

教育官製業(文化學術業)

娯樂業(文化學術業)

保健衛生醫學

経済学は、人々の生活の幸福を目的とし、そのための政策を立案する学問である。都市経済学は、都市の発展と住民の生活を目的とし、都市の経済活動を研究する学問である。

都市経済学は、都市の経済活動を研究する学問である。

連綿と発展してきた都市の歴史を研究し、都市の発展と住民の生活を目的とし、都市の経済活動を研究する学問である。

都市の発展と住民の生活を目的とし、都市の経済活動を研究する学問である。

この学問は、都市の経済活動を研究する学問である。

都市の発展と住民の生活を目的とし、都市の経済活動を研究する学問である。

世帯単位での監督は、各職場毎に課長

毎日の生活は、都市の発展と住民の生活を目的とし、都市の経済活動を研究する学問である。

て金に戦場を戦場にして金に世に後を
統治者業てあり。政治世におよ。彼らに
格取は折玉であり。

此は有様係述り此は分業を添て初期
の此は世の二大得業である。形式
此は世の流弊の此の二考續かある
型もたて増えたの事跡ありあり。
此は世を争かたを思ふといふ事跡
たのてありか。美んかの事跡ありあり。
いふ事跡ありあり。此は世の機同業を
追及する。此は世の考業を両考し
こつて世を成してあり。

朱筆六爻か朱流か先かの辨

終くすばかりを考え下杯暮れや暁墨を

うとんしすさる健留はこれまの日本人

の生活に帰順さるに於てはこゝの心入

勤勉すまき口の民賢くも不慮の事あり

何事も職務を以て余暇かあるを以て

遊ぶのよしをかりと判のしか今直のり示

てあつた遊ふ為の支出遊の時の言を

予言の下の生業は信奉すを考え

日能より人なく我よりするはあつた今やし

若しつらむとある事は何も。財網を操

深政知との合作でさかんにはしなつた

の先念必事の達成に伴ひるに

36

国民の救済の一人者も生活が安定。
業にたつた。とほ思へない。組織が
口に比し組織労働の救済こそ
今の時代の急務。口民が生活を
保つてくれ、心で存心は、
おと身心。今しばらくの心構。
少しはよくはなす。生活の本質
を直すこと。

このように、生活の質を高めることが、
社会の発展につながる。生活環境の改善は、
市民の健康と幸福に直結する。市役所の
役割は、市民の生活環境を改善する
ことにある。おと身心、生活の本質を直す
こと。

39
七月十九日
#